

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																				
3	<p>・外国人留学生、定住外国人、社会人、障害のある学生など、多様な学生の受入れを進め、本学で学ぶ意欲を持つ特長ある人材を安定的に確保する。【No.3】</p> <p>〈数値目標〉 志願倍率（該当年度内に実施した学部一般選抜（前期・後期））：過去3年平均以上／毎年</p>	<p>・静岡県校長会との懇談会を開催し、高校における学びの現状と多様な学生の受入れに関する意見交換を行う。【No.3】</p>	<p>・7月と11月の2回にわたり、本学を会場として県内高校の校長会との懇談会を実施し、高校現場における学びの状況と課題、本学の入学者選抜全般に関する意見交換を行った。</p> <p>・SHIZULATIONS主催 JICA中部共同実施「外国にルーツを持つ親子のための進路セミナー」に参加した。</p> <p>・外国人留学生を対象としたガイダンスを定期的に行い、授業や生活サポートについての情報提供を行った。障害のある学生に関しては、修学サポート室で生活サポートの配慮依頼内容を確認し、担当教員に配慮申請を行った。</p> <p>・全国の共通テスト志願者が50万人を割るなど、各大学が受験生確保に苦戦する中、前年度に比べ一般選抜志願倍率が上昇した。【No.3】</p> <p>〈数値目標〉 一般選抜（前期・後期）における志願倍率：5.0倍 ※過去3年平均：5.5倍。</p>	A (R4) (B)	B (R4) (B)	<p>学部一般選抜の志願倍率について、前年度から上昇したものの、数値目標が未達成となったため、左記の評価とする。引き続き、大学の魅力発信や高大連携によるニーズ把握、分析などを踏まえて、多様な学生に向けて訴求力のある取組を実施されたい。</p> <p>〈数値目標の達成状況〉 学部一般選抜（前期・後期）入試結果 (単位：倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化政策</td> <td>5.0</td> <td>6.6</td> <td>4.2</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>デザイン</td> <td>5.9</td> <td>6.7</td> <td>6.3</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5.3</td> <td>6.6</td> <td>4.9</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈R5主な取組〉 校長会との懇談会 ・7月26日「静岡県校長会進学指導委員会」との懇談会（R5初開催） ・11月1日「静岡県農業高等学校校長会及び総合学科高等学校校長会」（毎年開催）</p>	区分	R3	R4	R5	R6	文化政策	5.0	6.6	4.2	4.4	デザイン	5.9	6.7	6.3	6.2	合計	5.3	6.6	4.9	5.0
区分	R3	R4	R5	R6																						
文化政策	5.0	6.6	4.2	4.4																						
デザイン	5.9	6.7	6.3	6.2																						
合計	5.3	6.6	4.9	5.0																						

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
27	<p>・外部試験の活用により、学生の学修成果を客観的に検証し、教育活動を改善する。【No.27】</p> <p>〈数値目標〉 英語の学修成果（在籍期間中のTOEICスコア） 800点以上を取得する学生数26人以上 700点以上を取得する学生数64人以上 600点以上を取得する学生数167人以上／毎年</p> <p>中国語の学修成果（年度毎のHSK取得） 3級以上を取得する学生数42人以上／毎年</p>	<p>・TOEICやHSKなど外部試験のデータを活用し、学修成果を検証する。 ・検証結果をもとにカリキュラム改定への提言、学生への学習支援を行う。【No.27】</p>	<p>・多文化・多言語教育研究センターにおいて、学生の語学力向上、留学促進のため「外国語検定試験検定料」の補助を行い、学生の外部検定試験受験を促進した。 ・TOEIC対策講座・HSK4級特別講座を実施し、検定試験のための特別支援を行った。 ・英語プレゼンテーション・コンテストを開催し、9名の学生が参加した。【No.27】</p> <p>〈数値目標〉 英語の学修成果（在籍期間中のTOEICスコア）： 800点以上を取得する学生数40人 700点以上を取得する学生数80人 600点以上を取得する学生数220人 中国語の学修成果（年度毎のHSK取得）： 3級以上を取得する学生数64人</p>	A (R4) (A)	S (R4) (A)	<p>外部試験検定料の補助や試験対策講座などの支援により、TOEIC及びHSKの好成績取得者が大幅に増加したため、左記の評価とする。新カリキュラム開始（令和7年度）以降も、外国語教育における学修成果を検証し、教育活動の改善につなげていくことを期待する。</p> <p><数値目標の達成状況> ○英語の学修成果（在籍期間中のTOEICスコア） ・800点以上を取得する学生数40人（目標26人以上）達成度154% ・700点以上を取得する学生数80人（目標64人以上）達成度125% ・600点以上を取得する学生数220人（目標167人以上）達成度132% ○中国語の学修成果（年度毎のHSK取得）： ・3級以上を取得する学生数64人（目標42人以上）達成度152%</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)														
54	<p>・公開講座、公開工房等、地域の市民に向けた生涯学習の機会を提供する。【No.54】</p> <p>〈数値目標〉 公開講座等の参加者数：過去3年平均以上／毎年</p>	<p>・教員の専門分野を活かした公開講座やイベント・シンポジウムを実施する。【No.54】</p>	<p>・本学教員の専門分野を活かした公開講座3件、イベント・シンポジウム6件を実施した。 ・東アジア文化都市2023の専門協働プログラムに参画し、「静岡県ものづくり文化展」を開催した。本事業は、両学部の学生が協働し、地元企業の魅力をパネルや映像で伝える新たな産学連携の取組であり、723人が来場した。【No.54】</p> <p>〈数値目標〉 公開講座等の参加者数：4,066人 過去3年平均値 3,713人</p>	S	A	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>公開講座等においては目標を超える参加者を集めたが、S評価の基準である110%を上回っていないため、左記の評価とする。</p> </div> <p>〈数値目標の達成状況〉 公開講座等の参加者数：4,066人（目標3,713人以上）達成度109.5%（単位：人数）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公開講座等の参加者数</td> <td>5,813</td> <td>4,453</td> <td>4,530</td> <td>2,692</td> <td>3,918</td> <td>4,066</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈R5主な取組〉 ○公開講座 「コーヒー2050年問題とフェアトレードの現在」217人参加、「近代日本の医・薬・食とその現代的復元」36人参加、「道具が語る日本の文化とものづくりの文化」41人参加</p> <p>○静岡県ものづくり文化展-静岡100年企業の世界- 723人参加 12/8～21 浜松市周辺で100年近く操業している長寿企業11社について、その企業が持つ技や製品の特長を学生が調査し、パネルや映像にまとめたものを展示した。文化政策学部とデザイン学部の両学部の学生たちの協業によって取材を進め、企業の組織や戦略について研究する学生と、製品開発やブランドのデザインを学ぶ学生とのコラボレーションを通じて企業の魅力を伝える新たな産学連携の形を示した。</p>	区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5	公開講座等の参加者数	5,813	4,453	4,530	2,692	3,918	4,066
区分	H30	R1	R2	R3	R4	R5														
公開講座等の参加者数	5,813	4,453	4,530	2,692	3,918	4,066														

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
70	<p>・当中期目標期間初頭に「遠州学林構想」の答申を固め、以後その具体化を推進する。【No.70】</p>	<p>・遠州学林構想の答申をもとに、その具体化について検討部会を設置して実現に向けた準備を進める。【No.70】</p>	<p>・遠州学林構想について、専門部会での検討及び将来構想検討委員会での最終確認を行い、答申を行った。 ・遠州学林構想の基盤となる国際交流センター、地域連携センターの設置について検討を進めた結果、令和6年度からの設置を決定した。【No.70】</p>	S (R4) (A)	A (R4) (A)	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>国際交流センター及び地域連携センターが具現化されたものの、具体的な活動は翌年度に開始されることから、令和5年度に計画を上回る成果を上げたとは認められないため、左記の評価とする。</p> </div> <p><R5主な取組> ○遠州学林構想の基盤となる2つの組織（国際交流センター、地域連携センター）を具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠州学林構想の答申策定日：R5.5/18（将来構想検討委員会にて最終確認を行い、答申を行った） ・国際交流センター→大学のグローバル化推進 ・地域連携センター→県をはじめとする地域との連携推進

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
75	<p>・業務のスクラップ&ビルドを行い、教育・研究組織及び事務局組織の効率的な連携を踏まえた組織改革を進める。【No.75】</p>	<p>・事務事業の見直しや効率化とともに、教育・研究組織と事務局組織の効果的な連携を踏まえた組織改革を進める。【No.75】</p>	<p>・各室で業務改善を図った結果、21件の業務が改善された。また、成果等を冊子にまとめた。 ・教育・研究組織と事務局組織の効果的な連携を踏まえた事務局組織の改編について検討し、令和6年度から実施することとした。 ・令和6年度当初予算編成において、既存業務をゼロベースで見直し、約3,000万円の削減効果があった。【No.75】</p>	S (R4) (S)	A (R4) (A)	<p>令和6年度当初予算編成において、既存業務をゼロベースで見直した結果、約3,000万円の削減効果があった。また、組織管理の強化及び大学運営の戦略性の向上を目的として、令和6年度からの法人事務局と大学事務局の一体化と事務局組織の見直しを行ったが、効果の検証が不十分なため、左記の評価とする。</p> <p><R5主な取組> ○既存の事業見直しによる削減額：△29,757千円 (具体例) ・大学広報経費：△6,385千円 (広報媒体の見直し) ・学生募集経費：△2,493千円 (募集方法の見直し) ・研究費：△5,000千円 (配分額の見直し) ・就職支援事業費：△1,440千円 (実施方法の見直し)</p> <p>→人件費や物価の上昇、新規事業実施により支出増加が予定されている中、これまで実施してきた事業をゼロベースで見直すことにより、費用を捻出した。</p> <p>○事務局組織の改編 →組織管理の強化及び大学運営の戦略性を高めることを目的として、法人事務局と大学事務局の一体化と事務局組織の見直しを行った。</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R 5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																					
79	<p>・寄付金の使途や成果を積極的に広報し、寄付の勧奨を戦略的に行い、静岡文化芸術大学基金の充実を図る。【No.79】</p>	<p>・静岡文化芸術大学基金について、同窓会、後援会等を通じて、積極的な広報を行う。 ・引き続き、基金を原資として、修学支援や教育研究支援を行う。【No.79】</p>	<p>・静岡文化芸術大学基金について、同窓会、後援会や地元企業に対して、積極的な広報を行い、約210万円の寄付を受けた。 ・基金について、新たにオンライン決済を導入した。 ・基金を原資として、実情に合わせた修学支援や教育研究支援を行った。【No.79】</p>	S (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>寄附金の活用額は増えたものの、寄附受領額は昨年度から減少しており、更なる寄附を呼び込む好循環が生まれるよう戦略的な活用、教育研究成果の還元に努められたい。</p> <p><寄附金の推移> (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30 (制度創設)</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄附額</td> <td>3,787</td> <td>2,315</td> <td>2,512</td> <td>1,736</td> <td>2,776</td> <td>2,104</td> </tr> <tr> <td>活用額</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>150</td> <td>0</td> <td>1,345</td> <td>2,499</td> </tr> </tbody> </table> <p><R 5主な取組> ・幅広い広報活動やオンライン決済の導入など、基金拡大に向けた取組を積極的に行った。 ・寄附金を活用し、教育研究支援を積極的に実施した。</p>	区分	H30 (制度創設)	R1	R2	R3	R4	R5	寄附額	3,787	2,315	2,512	1,736	2,776	2,104	活用額	0	0	150	0	1,345	2,499
区分	H30 (制度創設)	R1	R2	R3	R4	R5																					
寄附額	3,787	2,315	2,512	1,736	2,776	2,104																					
活用額	0	0	150	0	1,345	2,499																					

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
85	<p>・知名度向上と本学が求める学生の確保に向けて、媒体の性質及び訴求対象を踏まえた戦略的な広報を国内外に向けて行う。</p> <p>・教職員の自学に関する理解を促進し、教職員一人ひとりが様々な機会に応じて全学的な広報を行う。【No.85】</p>	<p>・本学の理解を深めるツールとして大学公式映像をリニューアルし、学生募集等に活用する。</p> <p>・「SUAC理解・基礎データ集」の内容の充実を図る。</p> <p>・教職員の自学理解を深めるため、新任教職員等への研修会を開催する。【No.85】</p>	<p>・大学公式映像をリニューアルし、大学概要紹介映像（10分版）と大学イメージ映像（3分版）を制作し、大学Webサイト及びYouTubeチャンネルにて公開した。</p> <p>・「SUAC理解・基礎データ集」について、掲載内容の追加・更新を行い、全教職員に配布した。</p> <p>・教職員の自学理解を深めるため、着任後3年以内の教職員を主な対象として、「SUAC理解・基礎データ集」をもとに自学理解のためのSD研修会を実施した。</p> <p>・学内の情報を「大学広報に関する情報提供フォーム」を活用するなどして集約し、それらをもとにプレスリリースを作成、報道機関に発信した。また、報道機関等からの取材問合せに丁寧かつ適切に対応することで、本学の取組がニュース番組や新聞等で取り上げられた。</p> <p>・本学も主催者となっている国際オペラコンクールを6年ぶりに開催し、成功させた。告知のため、TV番組の放映、交通広告（浜松、静岡、名古屋、豊橋）等を行い、前回は超える本選出場者数につながった。加えて、コンクール期間中にライブ配信を実施し、国内外に広く発信した。前回よりも応募者が増え、県民として初の本選出場者があった。さらに、本学学生14名がボランティアとしてコンクール運営補助を行った。【No.85】</p>	S (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>6年ぶりに開催した静岡国際オペラコンクールを広く情報発信したほか、大学公式映像をリニューアルしWebサイト等で公開するなど、大学の魅力の発信に努めたが、計画を上回る成果を上げたとは認められないため、左記の評価とする。今後も大学の研究成果や取組の戦略的な発信に期待する。</p> <p><その他取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県ものづくり文化展」を開催し、図録を作成して、大学の広報活動にも活用した。 ・自学理解のためのSD研修会 参加者数 38名 ・プレスリリースの件数 R5年度 25件 (過去3年平均29件) ・本学の新聞記事件数 R5年度 213件 ・施設見学への対応 R5年度 12校、718名

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価を変更した項目（8項目）

資料1

No.	中期計画	R 5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
88	<p>・災害・事故・事件等の緊急事態に適切に対応するため、感染症等の新たな要素も想定に入れて、防災訓練の実施、防災マニュアルの見直し、保安管理体制の見直し等、危機管理体制の充実を図る。【No.88】</p>	<p>・危機管理体制の見直しについて、事務局内で検討する。 ・災害備蓄品の更新・補充を継続する。【No.88】</p>	<p>・危機管理体制の見直しについて、事務局内で検討し、以下の対応を行った。 ①災害発生時の避難に関する動画の作成及び公開による、避難に関する意識の涵養 ②上記動画に関連付けての、避難訓練の実施</p> <p>・災害備蓄品の更新・補充を実施した。 ・令和6年能登半島地震発生時には、安否確認フォームを用い、学生、教職員の安否をただちに確認した。迅速かつ的確な対応を行った代表的な県内大学として、NHKからの取材を受け、ニュース番組で取り上げられた。 【No.88】</p>	S (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>災害発生時の避難に関する動画を制作し、動画に関連付けた避難訓練を実施した。また、令和6年能登半島地震発生時には安否確認フォームを適切に運用し、教職員や学生の安否を迅速に確認することができたものの、計画を上回る成果を上げたとはまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><安否確認フォームの整備> ・安否確認フォームは令和4年度より導入。それまでの「緊急連絡/安否確認システム」は、事前登録が必要であったため、学生が授業等で使用しているmanabaや大学ホームページから簡単にアクセスできるフォームに変更した。</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（3項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																
4	<p>・大学院においては、学内進学者を確保するとともに、社会人や外国人留学生の受入れを促進する具体的な取組を実施し、入学定員を充足させる。【No.4】</p> <p>〈数値目標〉 大学院における入学定員の充足状況：100%/毎年</p>	<p>・本学の学部生を対象とした大学院進学説明会を充実させる。 ・出願希望者が本学教員との事前相談を十分に行えるようにする。【No.4】</p>	<p>・本学学生向けの大学院進学説明会を、研究科ごとに6月に実施した。 ・新たな試みとして、大学院文化政策研究科説明会を県外の会場にて実施した。 ・大学院文化政策研究科において、JICA海外協力隊等の国際協力活動経験者を対象とした「国際協力経験者特別選抜」を新設し、より専門性の高い、多様な人材が本学で学びやすい体制を整えた。 ・大学院入学後の研究分野におけるミスマッチを防ぐ目的のもと、指導希望教員との事前相談を出願希望者全員が実施した。【No.4】</p> <p>〈数値目標〉 ・大学院研究科の定員20名に対し、志願者は47名（開学以来2番目に多い人数）であった。そのうち16名が入学した。（うち、本学学生は10名）→充足率80%</p>	B (R4) (A)	B (R4) (A)	<p>大学院文化政策研究科における入学定員の充足率について、数値目標が未達成となっている。一方、デザイン研究科の入学者数は定員を上回り、志願者数も年々増加している。こうした状況を踏まえて、適正な定員管理の観点から、両研究科の見直しに着手する必要がある。</p> <p>＜大学院の入学者状況（R6）＞</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>定員</th> <th>志願者</th> <th>合格者（入学者）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化政策研究科</td> <td>10名</td> <td>10名</td> <td>7名(5名)</td> </tr> <tr> <td>デザイン研究科</td> <td>10名</td> <td>37名</td> <td>14名(11名)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20名</td> <td>47名</td> <td>21名(16名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜R5主な取組＞ ・大学院進学説明会 〈文化政策研究科〉 6/22：学内 8/5, 8/6：オープンキャンパス 11/21：大阪 〈デザイン研究科〉 6/21：学内 ・指導希望教員との事前相談依頼件数：A日程27名、B日程79名</p>		定員	志願者	合格者（入学者）	文化政策研究科	10名	10名	7名(5名)	デザイン研究科	10名	37名	14名(11名)	合計	20名	47名	21名(16名)
	定員	志願者	合格者（入学者）																			
文化政策研究科	10名	10名	7名(5名)																			
デザイン研究科	10名	37名	14名(11名)																			
合計	20名	47名	21名(16名)																			

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（3項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																									
41	<p>・地域の企業の魅力を学生に向けて発信し、理解促進を図る。【No.41】</p> <p>〈数値目標〉 大学主催の就職支援事業の参加率：45%以上／毎年 就職率：100%／毎年 県内就職率：過去3年平均以上／毎年</p>	<p>・企業説明会、業界研究セミナーに地域企業を招聘するなど積極的に交流をはかる。【No.41】</p>	<p>・企業説明会、業界研究セミナーにおいて、特に卒業生の就職先を中心とした学生の志望度が高い地域企業を幅広く招聘した。【No.41】</p> <p>〈数値目標〉 大学主催の就職支援事業の参加率：27.2% 就職率：96.2% 県内就職率：33.7% (過去3年平均38.1%)</p>	B (R4) (B)	B (R4) (B)	<p>大学主催の就職支援事業の参加率、就職率、県内就職率の数値目標が未達成となっている。引き続き、地域企業と積極的な交流を図るとともに、学生が希望する進路に就職できるよう、社会情勢及び学生の特性を踏まえ、適切かつきめ細やかな支援を実施されたい。</p> <p><数値目標の達成状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職支援事業参加率</td> <td>33.5%</td> <td>28.6%</td> <td>29.6%</td> <td>27.2%</td> </tr> <tr> <td>就職率</td> <td>92.6%</td> <td>96.5%</td> <td>96.3%</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td>全国調査</td> <td>96.0%</td> <td>95.8%</td> <td>97.3%</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td>県内就職率</td> <td>39.4%</td> <td>39.1%</td> <td>35.9%</td> <td>33.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p><R5主な取組> 保護者説明会、業界研究セミナー、学内企業説明会等に卒業生を講師として積極的に招き、在学生の興味を喚起すると同時に交流の場を設けた。</p>	区分	R2	R3	R4	R5	就職支援事業参加率	33.5%	28.6%	29.6%	27.2%	就職率	92.6%	96.5%	96.3%	96.2%	全国調査	96.0%	95.8%	97.3%	98.1%	県内就職率	39.4%	39.1%	35.9%	33.7%
区分	R2	R3	R4	R5																											
就職支援事業参加率	33.5%	28.6%	29.6%	27.2%																											
就職率	92.6%	96.5%	96.3%	96.2%																											
全国調査	96.0%	95.8%	97.3%	98.1%																											
県内就職率	39.4%	39.1%	35.9%	33.7%																											

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和5事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（3項目）

資料1

No.	中期計画	R5年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																								
74	<p>・戦略的な大学運営の基礎となる各種情報を整理し提供するIR機能の整備、アウトソーシングやIT化による事務の効率化を進める。【No.74】</p> <p>〈数値目標〉 時間外勤務時間数（総時間数）：対前年減／毎年</p>	<p>・IRの推進に必要な情報資産を整理する。 ・事務の特性に応じたアウトソーシング化やIT化により効率化を進める。 ・事務事業の見直しを図るなど、時間外勤務の縮減に取り組む。【No.74】</p>	<p>・SUAC理解・基礎データ集にまとめられた情報をIR推進に必要な情報資産として整理し、SD研修等を通じて教職員間で情報共有した。 ・年末調整業務の外部委託を実施し、さらにWeb給与明細や規程管理システム等の導入の検討を行う等、業務の効率化を図った。 ・新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い、国際オペラコンクールをはじめとする諸活動に注力した。 ・時間外勤務は増えたが、時間外勤務の多い職員及び当該室長に対して事務局長ヒアリングを行い、室内の業務分担の見直し等を行った。【No.74】</p> <p>〈数値目標〉 時間外勤務時間数（総時間数）：13,825時間 （前年度実績：13,067時間）</p>	B (R4) (A)	B (R4) (B)	<p>年末調整業務の外部委託を実施したほか、規程管理システム等の導入を検討するなど、アウトソーシングやIT化による効率化を図ったものの、時間外勤務が増加している状況であるため、業務効率化や事務事業の見直しを更に進め、改善を図りたい。</p> <p><時間外勤務時間の推移></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間数</td> <td>13,650</td> <td>13,039</td> <td>12,677</td> <td>14,200</td> <td>11,806</td> <td>13,067</td> <td>13,825</td> </tr> <tr> <td colspan="8">コロナ禍前平均13,122</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	時間数	13,650	13,039	12,677	14,200	11,806	13,067	13,825	コロナ禍前平均13,122							
区分	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																							
時間数	13,650	13,039	12,677	14,200	11,806	13,067	13,825																							
コロナ禍前平均13,122																														

検証後の集計結果（公立大学法人静岡文化芸術大学）

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研 究 等	1 教育	43	0	2	38	3	0	0	1	40	2	0
	2 研究	9	0	0	9	0	0	0	0	9	0	0
	3 地域貢献	10	0	1	9	0	0	0	2	8	0	0
	4 グローバル化	5	0	0	5	0	0	0	0	5	0	0
	合 計	67	0	3 (4.5%)	61 (91.0%)	3 (4.5%)	0	0	3 (4.5%)	62 (92.5%)	2 (3.0%)	0
法人 経 営	1 業務運営の改善	10	0	0	9	1	0	0	2	7	1	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	3	0	0	0	1	2	0	0
	3 施設・設備の整備、活用	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	合 計	15	0	0	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	0	3 (2.0%)	11 (7.3%)	1 (6.7%)	0
自己 点 検	1 評価の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開等の充実	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0
	合 計	3	0	0	3 (100%)	0	0	0	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	5	0	0	5	0	0	0	1	4	0	0
	2 社会的責任	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	合 計	7	0	0	7 (100%)	0	0	0	1 (14.3%)	6 (85.7%)	0	0
総 合 計		92	0	3 (3.3%)	85 (92.4%)	4 (4.3%)	0	0	8 (8.7%)	81 (88.0%)	3 (3.3%)	0